

平成28年度

日野市郷土資料館の運営の  
状況に関する評価書  
(平成27年度事業)

平成28年9月

日野市郷土資料館

## 目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	郷土資料館の現状	1
	（1）組織と職員	
	（2）主な業務	
4	評価の実施方法	2
5	評価の対象	2
6	評価の結果	2
	事業別 郷土資料館事業評価表	5～18

### 参考資料

I	平成27年度 日野市郷土資料館の活動状況	19～30
II	日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	31
III	第6期日野市郷土資料館協議会委員名簿	32

## 1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

## 2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

## 3 郷土資料館の現状

### (1) 組織と職員

組織；1 館 1 係〔資料館係〕

職員；5 人〔館長 1、係長 1、主任 2（学芸員）、用務主事 1〕

嘱託職員；3 人〔学芸員 2〕

臨時職員；1 人

### (2) 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から新たに生まれた日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指し、10 年を迎えました。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する事業
- ② 資料の調査研究に関する事業
- ③ 資料の普及広報活動に関する事業
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携事業

#### 4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年1回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。今回、取り上げた11事業のほか、郷土資料館の全体にかかわる意見を付加しております。

#### 5 評価の対象

平成27年度の評価対象は、次の11事業について行うこととしました。

- No.1 郷土資料館協議会の開催
- No.2 学校教育との連携事業
- No.3 企画展開催事業
- No.4 特別展「勝五郎生まれ変わり物語～生誕200年記念展」開催事業
- No.5 古文書調査・整理等事業
- No.6 資料整理・公開事業（マイクロフィルムデジタルデータ化）
- No.7 豊田旧名主家における古文書等歴史資料の文化財調査事業
- No.8 幻の真慈悲寺調査事業
- No.9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.10 資料館講座・体験学習事業
- No.11 自然収蔵展示室の整備事業

#### 6 評価の結果

平成27年度の郷土資料館協議会の評価の総括としては次の通りです。

- ① 学校教育との連携、支援に関しては、郷土資料館での「農具体験」や学校への出前授業「昔の道具」など学校側にも周知され、子供達が本物に触れながらのすばらしい体験学習と評価する。
- ② 「勝五郎生まれ変わり物語」や「真慈悲寺の調査研究」などは、市民と協働し調査研究が続けられ、その内容も多岐に渡り発展し、各地へと発信されている。今後も

- 日野市の誇る郷土史を物語る一頁として、イベント等の啓発事業を展開してほしい。
- ③ 郷土資料館での実物を見せることの醍醐味、すばらしさが展示や解説の中にまとめられており、どんどんと「本物」の強みを訴えてほしい。
  - ④ 豊田旧名主家の二つの蔵の建築史的調査を発端とし、保管されていた古文書類の目録作り及び大正期の写真乾板の調査を郷土資料館として独自に着手したことは評価できる。今後、豊田地域の貴重なデータが明らかになり豊田ビールをはじめまちづくりの起爆剤になり、今後の進展が楽しみである。
  - ⑤ 市内の区画整理等の開発や代替わりによる農具・民具の廃棄及び代替わりによる古文書類の散逸が目立ってきている。平成27年度には、「寄贈」「寄託」時のチェックリストの作成を行い、単なる「物」から価値のある「資料」として把握し、収蔵・保管を効率的に行うことが早急に必要である。その上で、平成28年度に運用を開始し、問題・課題点を抽出し改善していく必要がある。
  - ⑥ 山の上という地の利を生かした自然・地質等の展示・事業の展開に関して手を打っていく。見に来ていただく「興味を引く展示」、打って出ていく「内容のある出前事業」の知恵を出し合い企画していかなければならない。
  - ⑦ 市民による自主的学習活動への支援は、調査・研究の成果等が目に見えて素晴らしいが、各団体が自ら学ぶという所謂「生涯学習」という分野を逸脱しない、その線引きが難しいが大切な部分である。
  - ⑧ 資料や文化財がその場で見られることや、その資料と同じ空気の中で見ることのできる素晴らしさが大切である。郷土資料館だけの展示・保管だけでなく、各地の地区センター等を利用しての出張展示・解説も必要である。

そのほかに、協議会委員から全体的なご意見をいただいています。

- ・立地や施設が恵まれていないが、広い敷地や教室を活用して、ミニ水族館、畑・田んぼ、カブトムシ養殖などを整備し、団地地区の学校の通年体験に供する。
- ・福祉施設の利用が増加していくので、ゆっくり休んでいける場所を作り、積極的に誘致する。
- ・農協の建て替えの前に、資料の調査をする。特に日野は農村地域であったため、重要な資料となる。
- ・複数年にわたる調査や展示は、大変評価されるものであることは言うまでもないが、その分、利用者を固定してしまう面もあるので、常に新機軸を開いていく企画立案が望まれる。
- ・文化財ウィークなどで、近隣市と協力して市民に日野市を越えた視野を提供する。
- ・文化財の担当部署と連携して、遺跡発掘現場や桑ハウスの見学会を実施する。
- ・アケボノゾウの復元展示をする。

資料館と市民が協働で取り組んでいるが、到達点が見えない気がする。市民がそれぞれやりたいことがあっても、行政の方は予算や期限などの問題で市民の期待にこたえられないこともある、市民と共にやっていく際には、市民が独立してやることなのかなどの方向を見据えているのかどうか、不安な感じがある。空中分解したり、不信感が残ってしまうこともあり得るので、取り組み方が気になりである。

館活動の全体を見渡すと、限られた条件の中にあるが、郷土資料館として求められていることを過不足なくこなしているように思う。展示も特別展・企画展のみならず、パネル展示で積極的に館外へも展開するなど評価できる。市民協働や生涯教育の場としての役割も十分に果たしていると思うが、学芸員のエデュケーターとしての役割が負担になっていないか気になる。良いエデュケーターになるためには、専門的知識が欠かせない。館内および管理職による適切な調整が欠かせないであろう。

予算については欲を言えばきりが無いが、管見では頑張っているように思う。

文化はあたたかい人の心を通してこそ、伝わっていくものではないかと感じる。学校との連携事業、勝五郎生まれ変わり事業、古文書調査事業、真慈悲寺調査事業、七生丘陵の自然歴史事業、体験学習事業などあらゆる分野で市民との関わりを大切にし、地元根付いているということは何よりも意味あることのように思う。

この日野で、自然を愛し時には自然に苦しみつつも、一生懸命大地を守ってきた先人達のご苦労が、時を超え報われるような郷土資料館であってほしいと願う。そしてこの地に生きた先人達の精神的なものが一人でも多くの人に伝わり、未来の子供達に引き継がれることを切に願う。

各協議会委員の評価をいただき、各事業の問題点や課題点が明確になり、今後の取り組み、方向性・改善点が明示され、多くの課題、難しい宿題を提示されたと考えております。

平成 27 年度は郷土資料館のテーマとして「市民の方々が自ら、郷土の歴史を誇らしく語る情報を発信し続ける」と掲げさせていただきました。やはり、郷土資料館職員一人ひとりがレベルアップし、平成 28 年度のテーマを「すばらしい日野の郷土を自らが感じる」とし、各事業を展開してまいります。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価・意見は、5 ページ以降の評価表のとおりです。

## 郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<b>事業項目</b>	No.1 郷土資料館協議会の開催
<b>事業の概要</b>	<p>日野市郷土資料館協議会は、博物館法および日野市郷土資料館条例により位置づけられている。郷土資料館の運営に関して、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関。学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験者、公募市民の10名で構成されており、年3回の会議を開催して意見を求めた。</p> <p>また、資料館は、「日野市郷土資料館の運営状況の評価」の要綱に従い、評価を毎年1回実施しており、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行っている。</p>
<b>事業の成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度は、寄贈寄託のガイドラインについて意見求めた。それらの意見を反映し、平成28年度は資料の受入などを検討する際のチェックシートを用いながら試行を行うこととなった。</li> <li>・「日野市郷土資料館の運営状況の評価」についての意見をもとめた。評価の結果は教育委員会に提出し、結果を市民に公表した。</li> <li>・委員からは会議席上で意見をいただくだけでなく、講座や体験学習会の開催や調査事業などに際して助言や協力をいただいた。</li> <li>・それぞれの立場からの意見を展示・講座などの事業に反映することができた。</li> <li>・委員からの賛否双方の意見を受けることにより、業務改善、士気が高まるなどの効果にもつながった。</li> </ul>
<b>協議会の意見</b>	<p>&lt;協議会のあり方、協議会そのものの評価について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会開催自体を評価するのは賛成。</li> <li>・協議会の開催を事業としてあげることには違和感を覚える。</li> <li>・各種専門家や利用者などが委員に選任され市の内外からの視点や利用者からの意見、アドバイスできる場が設けられているのは大切なことである。委員が各方面で郷土資料館の運営に協力することが実現している。</li> <li>・年2～3回しか開かれない当協議会が、毎回有意義な内容になっているかの反省検討は必要。</li> <li>・1回ごとの会合の内容にメリハリをつければ、前向きな問題解決への意見、協力案などが期待でき、当協議会が資料館の運営にとって、より有意義な存在になろう。</li> </ul> <p>&lt;協議会での寄贈寄託のガイドライン検討について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄贈寄託のガイドライン策定は大きな成果であるが、古文書調査・整理事業の一環としてなされたものである。</li> <li>・収蔵資料の増加はどの館も抱える問題だが、状況を熟知する担当学芸員の意見と収蔵施設などの現状に鑑み判断されるものでしょう。チェックシートの活用は、有力な方法の一つと思う。受入資料の評価については協議会等に諮るのも一方法。人脈は館活動の上でも必要で、可能な限り大切にしたいもの。</li> </ul>
<b>課題と改善策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員10名は、平成28年3月から第6期となり、3名の委員が入れ替わりとなった。委員の任期は2年であり再任や入れ替わりについて先を見据えて引き継いでいく必要がある。</li> <li>・委員退任後も別の形で郷土資料館とかかわっていけるように、ご縁を大切にしたい。</li> <li>・次年度は年3回開催を継続するが、運営側で配布資料の精査及び事前配布や委員長との事前調整などでより有意義になるように努力をする。</li> <li>・協議会そのものの評価について両論があるが、資料館活性化のために協議会の果たしている役割を示していきたい。</li> <li>・寄贈寄託や収蔵庫問題は、資料館の重要課題であり、評価項目として、今後どうするかは検討する。また、チェックシートでの運用を行い、問題点・課題点は精査し、協議会へ報告する。</li> </ul>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No.2 学校教育との連携事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の文化財を活用し、小中学生及び先生を対象とした文化財の啓発事業を展開する。</li> <li>・社会科見学や職場体験など小中学校の要望を取り入れた内容で対応を行う。</li> <li>・授業に必要な資料収集の相談を受け資料提供を行ったり、見学場所や人材の紹介などの提案をする。</li> <li>・説明時に用いたパワーポイントのデータなどの資料で必要なものは学校に提供してICT教育の教材として活用してもらうこととした。</li> <li>・校長会にて当館の事業案内をする際に、具体的な利用例や利用状況を説明した。新年度開始時の校長会で案内ができるように計画した。</li> </ul>
<p><b>事業の成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学3年生の「暮らしの道具」や、小学5年生の「稲の脱穀体験」、小学6年生の歴史授業など小学校への「出張授業」や「各展示」の案内・解説は好評だった。毎年度利用する学校が多く、校内での引継や独自の資料作成など相互作用により充実していく傾向が感じられた。</li> <li>・中学生の職場体験では仕事を体験するだけでなく、文化財などの資料の大切さや、日野市域の歴史や文化、自然について学ぶ機会となっている。少人数ではあるが毎年希望がある。</li> <li>・学校との連携が強まるにつれて、学校側からの提案や、今までにないテーマでの依頼がくるようになった。郷土の人物や過去の災害などは近年希望がでてきたテーマであるが、回を重ねることで内容が充実してきた。災害については、河川など日野独自の課題も盛り込んだ。</li> <li>・子ども向けの「勝五郎こども講座」の開催では、学校の協力を得て広報したり、マイクロバスの送迎場所を学校単位にしたため、小学生の参加率が向上した。</li> </ul>



## 協議会の意見

### <学校向け事業の手法について>

- ・小学生の児童が郷土資料館の存在を知り、郷土に対する知識や愛情を持ってもらうために学校との連携は必要である。施設見学のほかに出張授業等、多くの利用があり喜ばしい。さらに子供たちが再度訪れてたくなるような魅力的な資料館であってほしい。
- ・学校との日程調整に手間取り、すべての学校に公平というのは難しかった。館が所蔵する資料が体験に使用されるのは好感がもてる。出張授業や郷土資料の教材化は一層進めていただきたいが、他業務との兼ね合いも気にかかる。
- ・子供に実物を見せることで興味・感心が高まる。実物を見せて触らせて感じさせて欲しい。それができない場合はICTで補う。
- ・学習指導計画に合わせて「出前授業」「展示」等を実施し、学校の授業に専門性を活かし積極的にかかわるように。
- ・資料リストや調査解説資料で可能なものを公開し学校現場でも有効活用する。資料館でのICT化を図りより活用しやすくしたらよいと思う。

### <学校への広報・利用促進について>

- ・どの単元でどのような手伝いができるのかを知らせると学校も利用する。今までの実績をもとに、学校向け教材パックや出張授業テーマをまとめ「資料館から提供できる授業タイトルと教材」の案内を作成し教諭に配布する。資料館で提供できるものを、学年・教科・単元を示して提案すれば利用効率があがるのではないかな。
- ・数値化した目標をかかげることで、マイナスになった場合の改善策を考えてはどうか。学校現場を支援するとともに、利用できない場合はどのような協力をのぞむのか意向を聞いて可能なものから実現していく。
- ・校長会への積極的広報等は有効な方法であるが、各学校で教職員に伝達されるかは学校により温度差があると思われる。
- ・「ひのっち」での出張展示や講座の実績があるのは一つのヒントになる。
- ・小中教員の研究団体や、子供たちの活動組織・活動場所での広報や連携を積極的に行ってはどうか。
- ・資料館の企画案内や各利用依頼への対応に留まらず、労力を要するが、小中学校の教育課程を分析し、利用可能なプログラムを作成・蓄積していつかはどうか。
- ・計画的に各学校への巡回展示を企画する方法もある(ある程度強制的に)。展示を通しての学習補充とともに資料館の認知度を上げる効果も期待できる。

## 課題と改善策

- ・引き続き学校への周知については、学校の現状を把握して効果ある方法をさぐる必要がある。
- ・校長会、専科担当教諭、見学や出張授業時には、学校現場のニーズをくみ取るよう心掛ける必要がある。また教育制度の改変や社会情勢なども踏まえた対応が必要である。
- ・教育センターの郷土教育推進研究委員会とは引き続き連携・協力して進める。
- ・需要の多いテーマの教材化は、パネルの貸出や、データでの提供など具体化する必要がある。
- ・学校現場のICT教育状況などを把握した上で、効果的なデータの提供や説明方法など考える必要がある。
- ・資料館利用が不便な学校への出張授業や資料の提供など多様な方法での協力ができることを伝える必要がある。

## 郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<b>事業項目</b>	No.3 企画展開催事業
<b>事業の概要</b>	<p><b>&lt;郷土資料館企画展示室&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どつき土器展－掘り出された昔の暮らし－ 会期 4月18日～7月12日</li> <li>・日野市内の自然をさぐる 会期 7月18日～10月4日</li> <li>・平和の尊さを語り継ぐまち－戦後70年平和展－ 会期10月10日～1月11日</li> <li>・字限図(あざぎりず)でみる日野 会期 1月16日～4月17日</li> </ul> <p><b>&lt;パネル展&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『稲生物怪録絵巻(いのものけろくえまき)』 会期 7月11日～9月6日 資料館3階廊下にて</li> <li>・パネル展「多摩平写真日記」 会期 12月15日～1月29日 多摩平の森ふれあい館にて</li> <li>・パネル展「七生丘陵散策コースの昔と今」会期 1月14日～2月12日 京王線高幡不動駅南北通路にて</li> <li>・七生支所にて各テーマのパネルを提供し、ミニ展示を実施している。</li> </ul>
<b>事業の成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土資料館企画展示室で合計1,762人の観覧者があった。</li> <li>・「どつき土器展」では日頃公開されていない考古遺物を公表できた。</li> <li>・「日野市内の自然をさぐる」展の内容を自然収蔵資料展示室に引き継いだ。</li> <li>・「平和の尊さを語り継ぐまち」展では、戦争体験者が減る中、先の大戦について語り継ぐ役割を果たした。高齢者は深い思いで見学している様子が伺えた。</li> <li>・「字限図でみる日野」展では、旧大字を表現したピースを組み合わせた日野市パズルが大人にも子どもにも好評だった。明治、大正、昭和期の地図に興味を持つ人からの問合せが若干増えた傾向にある。</li> <li>・字限図の展示を契機に、古文書等の資料調査の過程で、個人宅からも字限図が発見されることが増えている。</li> </ul> <p>・パネル展「多摩平写真日記」、「七生丘陵散策コースの昔と今」はテーマとなった地元を会場とし、その場を訪れた多くの方々に目に触れる機会となった。多摩平写真展は、市民会館、郷土資料館に続き3回目の開催であるが、いまなお市民から開催の希望が寄せられる。</p>

## 協議会の意見

### <展示内容など>

- ・特別展など郷土資料館が他地区で開催したものの再展示もあるが、七生地区住民にとっては近場で訪れやすい。立地条件の悪さから、もっと地域へのPRが必要であろう。広報以外にも観光協会ホームページや、新聞などにも掲載されるようにしてほしい。
- ・土器展のように毎年やっているものは、今年は何が目玉であるのか分かるようにしては。土器については現地説明会が少ない。
- ・字切図展のパズルのような、教材化・作業化でき触ることができる展示物を今後もさらに工夫していく。川・用水・湧水・野鳥・昆虫・化石等の自然科学系の企画展を充実させる。
- ・郷土資料館の企画展示には、どつき土器展や字限図展のように専門性の高いものも重要であり、今後も続けるべきである。一方、小中学生始め一般市民参加型の企画も良いので、積極的に取り組んでいただきたい。
- ・「どつき…」など注意を引くタイトルは良いと思う。やはりタイトルは大事。字限図も内容は非常に興味を引くものなので、タイトルにもうひと工夫したい。たとえば「わが町地名図のつぎはぎ模様の秘密」とか。
- ・考古資料の常設が何とか欲しい。字切図の活用は身近な地名とも重ね合わせ、これまで他館でもなかったように思い、卓見と思う。
- ・パネル展で館外への活動展開も卓見で、これもよりすすめていただきたい。
- ・遺跡調査の時に近隣住民が何が発掘されるのか興味をもってはいたが、目にする機会がなく発掘遺物がその後どうなったのか関心をもっていた。

### <入館者数の把握など>

- ・入館者数を数えるための、来館者に記入してもらう入館者数記録がわかりづらい。
- ・写真展など見学者数が数えられない。

## 課題と改善策

- ・新収蔵品を紹介する展示や日頃取り組んでいる調査テーマなど資料館活動の成果を速報的に取り上げることも含めてテーマを考える必要がある。
- ・展示開催の紹介だけでなく、展示内容や関連映像などをHPで公表する機会も必要である。
- ・各地域での展示の機会をつくる。
- ・標本など自然資料の充実をはかる必要がある。
- ・対面で伝えるとおもしろさが伝わる。
- ・パネルだけでなく映像として残していきたい。
- ・企画展示室に入館者数計測装置を設置し、見学者の状況を把握する。
- ・来館者の反応や問合せ内容などから、市民の興味感心のあるテーマをさぐる。
- ・考古遺物の展示は文化財係と連携してより内容を充実させる。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No.4 特別展「勝五郎生まれ変わり物語～生誕200年記念展」開催事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<p>・地域に残る生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成して行なっている。本年度は、当事者の勝五郎生誕200年と、調査団発足10年の記念の年にあたり、特別展・記念日イベントの開催、調査報告書等の刊行を行った。</p> <p>・特別展の開催；新選組のふるさと歴史館にて開催。会期50日、講演会1回、見学会1回（東京都埋蔵文化財センターとの共催事業）、調査報告会1回（報告者＝調査団メンバー4名）。ポスター100枚、チラシ20,000枚、リーフレット4,000部を刊行した。</p> <p>・記念日イベントの開催；勝五郎生誕200年の当日にあたる10月10日に高幡不動尊五重塔地下ホールにて開催。記念講演を胎内記憶研究の第一人者である大門正幸氏（中部大学教授・バージニア大学客員教授）にお願いした。</p> <p>・報告書等の刊行；『勝五郎生まれ変わり物語調査報告書』（A4判 150ページ 1,000部、1,000円）、ブックレット『ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語』（A5判 50ページ 1,500部 200円）、勝五郎生まれ変わり物語探訪マップ（A4三つ折り1,000部 無償配布）の3点を刊行。調査報告書は、調査報告、調査研究成果の再録、関連資料の翻刻の3部構成で、勝五郎生まれ変わり研究200年の概要をまとめた。ブックレットは、報告書の内容を読み物として編集したもの。</p> <p>・調査団の活動・・・記念事業の遂行に全力をあげて協力したが、例年開催の公開講演会1回・夏休み子ども講座・中央大学ホームカミングデイのほか、明星大学学園祭出張展示・日本心霊科学協会主催の出張講演会・八王子市由木事務所における出張展示なども行った。9月より調査団のホームページを開設した。</p>
<p><b>事業の成果</b></p>	<p>・特別展；来館者2,800人（1日平均56人、昨年より1日10人増）、関連事業参加者448人（記念日イベント241人を含む）、調査団メンバーによる展示解説ガイドも行った。平成20年の1回展示より、掘り下げた内容の展示を行うことができ、200年間の物語の変遷を示すことができ、好評だった。展示パネルをタペストリーとしたため、収納場所の縮小と持ち運びの簡便さという利便が生じた。</p> <p>・刊行物は、他に類似の刊行物がないこともあり、非常に好評で、売れ行きも好調である。関連の学会・研究会などでも販売し、無償配布分はほとんどなく、販売分も3分の2ほどを販売した。ブックレットは、値段が安いこともあって、複数部数を購入する人が多い。</p> <p>・平成27年度は、後半になるにつれて活動の盛り上がりがあり、小学校での全校朝礼の出張も2校あり、総活動回数46回、総参加者数5,711人（内調査団646人）を数えた。また高幡不動尊藤蔵墓地でのリーフレットの配布は5,000枚を超えた。ホームページを見て事業に参加した人も多く、地方からの参加が増えた。</p>

## 協議会の意見

### <市民協働による事業展開>

- ・生誕200年記念特別展やその関連事業の成功は、長年にわたり市民と共に調査を進め、多くの資料の収集や多方面との交流によるものであり、世界的な視野で高く評価された。
- ・また、充実した内容の調査報告書やリーフレット等の刊行もすばらしい。この事業で単独にHPを開設し、各地からイベント参加があったことから、HP利用の必要性が感じられる。
- ・生まれ変わりの物語の調査が発展拡大し、日野市から全国へ広がっている。毎年調査団が関連する各地を調査している。市民に夢とロマンと日野への愛着心を与えている。また、全国から研究者が講師として講演を行っている。最初は昔話の1つかと思ったが、年々探究が進み、今では貴重な郷土伝承話になり、次に江戸時代の学者とのつながり、明治時代の小泉八雲の仲介で世界への紹介など、この話の世界規模の広がりを感じた。
- ・調査報告書の作成、紙芝居化、英訳本化なども進んでおり、担当者と調査団の皆さんの活動に拍手を送る。大分市民の中に浸透してきていると思う。

### <今後のあり方など>

- ・今後もふるさとの伝承として勝五郎子ども講座や記念日事業を郷土資料館事業として残すべきである。
- ・今後も都や八王子市等関連する他地域と連携した探求事業を継続する。
- ・不足している調査や掘り下げるべき問題点を明確にし、さらなる予算化、調査の継続を図る。
- ・広範な調査を進めることで、「奇妙な昔話」という域を脱して、現代科学でも研究対象となる「生まれ変わり」の事例であることを示すことができた。
- ・ホームページに分かり易い資料が多数掲載されているので、全国的な関心を呼ぶことができた。今後さらに、英語版や中国語版のHPを作成・掲載することにより世界的な話題を呼ぶことが期待される。
- ・郷土の人として異聖歌や田中冬二、伊藤整などもおり、異聖歌は大分調べられ発表されているが、他の人物も探究を進めていただきたい。他に芸術面や学者(例えば高野伸二＝野鳥、萱嶋泉＝蜘蛛)なども。
- ・勝五郎特別展は、近年の東京及び近県の資料館・博物館の地域資料関連特別展でも特筆と考える。取り上げ方も含め日野市の代表的歴史遺産の一つになるかと思うので、将来にわたって活かす方法を考えたいもの。歴史資料として考えることが肝要と思う。

## 課題と改善策

勝五郎生誕200年までという当初の活動目標を達成したが、調査報告をまとめる段階で、不足している調査や掘り下げるべき問題点などが明確になり、これからも活動を継続することを調査団と意思確認している。今後は、普及事業に一層努めながら、次世代への伝承の為に何が出来るか、新たな目標を設定して活動を支援する必要がある。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No.5 古文書調査・整理等事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の古文書の整理、目録作成、補修、撮影を行ない、保存のための手段を講じる。</li> <li>・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。</li> <li>・古文書を利用した講座や絵図を用いた見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広げる。</li> <li>・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。</li> <li>・27年度は「豊田旧名家における古文書等歴史資料の緊急文化財調査」も実施した。評価項目は別途独立させた。</li> </ul>
<p><b>事業の成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の調査・保存のため、豊田、川辺堀之内、日野本町地区などで古文書の現況確認や未整理の資料の目録作成、一部撮影を行った。落川のN家から古文書等250件と百草のI家から約400件の新規寄託を受けた。収蔵資料のうち、「日野の古文書を読む会研究部会」の協力を得て、A家文書約800件の整理を15回行ない、延べ68人の参加者があった。また、市域の千人同心関係文書などの解読・編集を63回行ない、延べ451人の参加者があった。</li> <li>・平成27年度に発行したリーフレット「村絵図を楽しむ6 落川」を使用して、落川地区の村絵図を学び現地を見学する全2回の講座を行ない、延べ39人の参加者があった。また、初心者向けに「甲州道中日野宿」をテーマとする全4回の古文書講座を開講し、延べ97人の参加者があった。市内高校生の参加もあった。</li> <li>・「上落川村絵図」4点の裏打ち修復を委託にて実施した。</li> </ul>
<p><b>協議会の意見</b></p>	<p>&lt;調査・整理活動など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の建替えや当主の逝去等による古文書の散逸をできるだけくいとめ、館に収蔵することを望みたい。また、それらの史料の整理・解読、特に公開を進めてほしい。</li> <li>・「読む会」との市民協働も含め、古文書の調査整理に大きな成果を上げていることに興味した。しかし課題にその成果の公刊について触れられていないのが気になる。将来的戦略を知りたい。</li> <li>・古文書の膨大な件数に驚く。今後さらに発見されるであろう。専門の学芸員を増員して古文書の整理・解読作業を継続したい。</li> <li>・市内にある古文書を整理・解読、資料を作成・公開することにより、市民の更なる興味と理解が得られると期待される。</li> </ul> <p>&lt;講座などの普及活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の開催など普及事業も成果の活用の意味も含めより一層進めていただきたい。</li> <li>・市内各村の絵図のリーフレットは非常に貴重な資料で、内容も豊富で興味をそそる。近隣の他市では、例のないものではないか。</li> <li>・講座「甲州道中日野宿」の内容解説や、講義資料をリーフレットにして、講座に出られなかった市民も学習できると良いのではないか。</li> </ul>
<p><b>課題と改善策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書の現況調査事業を今後も、安定して継続させる。散逸が心配される古文書は緊急に保護できるようにする。代替わりや文化財に対する意識も変化してくる中、所蔵者をはじめとする市民に古文書への理解を深めてもらうための活動を行う。</li> <li>・資料の保存や展示のために、必要な修復を検討し、未撮影の資料を順次撮影する。特に専門家への依頼が必要になる、大型の資料や特殊な資料の撮影を進めたい。</li> <li>・解読したものは順次公開をめざしており、近くは日野市域の『千人同心関係史料集』刊行を検討している。</li> </ul>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No.6 資料整理・公開事業(マイクロフィルムデジタルデータ化)</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<p>・古文書等歴史資料が撮影されたマイクロフィルムをデジタルデータ化し、パソコンで画像を検索利用できるようにするもの。          ・現在、郷土資料館には、市史編さん事業において撮影した35mmフィルム319巻、16mmフィルム61巻、ふるさと博物館において撮影した35mmフィルム61巻が保管されている(16mmフィルムは35mmフィルムの倍のコマ数がある)。マイクロフィルム専用読み取り機やその付属品は年々生産中止になっており、フィルムのままでは利用が困難なため、デジタルデータに変換しパソコン上で利用できるようにする。その際、目録もあわせて電子化し、画像検索が迅速に行われるようにするシステムの構築を目標とした。</p>
<p><b>事業の成果</b></p>	<p>・古文書資料を撮影したマイクロフィルムから、H家文書など約22,100コマ分をデジタルデータ化し、あわせて電子検索性目録を作成した。          ・事業の早期完了を目指して、今年度は予算額を前年の約1.5倍に増額した。平成19年度の事業開始から9年間でフィルム全体の約50%のデータ化が完了した。          ・「古文書講座」の教材や展示の資料選択に、また、市民からの閲覧や他の博物館からの問合せ等に答えることができた。</p>
<p><b>協議会の意見</b></p>	<p><b>&lt;進捗状況など&gt;</b>          ・郷土資料館にとっても、日野市にとっても重要な文化財である蓄積データ(マイクロフィルム)のデジタル変換は大切であり、今までも進められて来たが、なかなか進まなかったようだ。今年度は予算額が1.5倍になり、作業のスピードアップが図られた。やっと9年目にしてデータ化が全体の50%になり、喜ばしい。まだまだ道は遠いが、今後も加速して進めるべきである。          ・今後の進め方については、全体計画案を作成し、各年の到達すべき数値目標を明示すべきである。          ・次々と寄贈される新収蔵資料の撮影やデータ化の予算も必要である。          ・費用がかかるが、資料保存及び活用のためには欠かせないものだろう。継続的に進めたい。</p> <p><b>&lt;検索システム&gt;</b>          ・検索システムがPCのwindows(OS)の変更で、新システムの構築を考えねばならないようだが、OSのバージョン変更の度に影響されない、検索システムが作れると思う。</p>
<p><b>課題と改善策</b></p>	<p>・マイクロフィルムの約半分がデジタルデータ化されたが、フィルムの劣化は年々進行するため、フィルムの状態が少しでも良い内にデジタルデータ化を完了させたい。          ・事業開始から9年たち、この間に、過去データと新規データの統合に不具合が生じやすい、未撮影の資料も多くそれらは目録も電子化されていない、など新たに問題点も見えてきた。さらに、現行のOSが使用できなくなった場合に、検索のためのシステムに不具合が生じてしまう。今後新たなシステムの構築を考えていく必要がある。</p>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No.7 豊田旧名主家における古文書等歴史資料の文化財調査事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<p>平成25年度に生涯学習課文化財係が行った豊田村旧名主家の文化財調査(「長屋に関する建築史的調査」及び「集合住宅予定地の埋蔵文化財発掘調査」)により、未確認の古文書やガラス乾板等の歴史資料が多数発見され、更なる文化財調査の必要性が高まった。 その調査成果を踏まえ、平成27年度調査は、①文庫蔵・穀蔵の建築史的調査 ②ガラス乾板調査 ③古文書等歴史資料調査を行った。</p>
<p><b>事業の成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの蔵の建築史調査: 文庫蔵と穀蔵の実測調査を行い、記録写真及び図面を作成した。震災後に鉄筋コンクリート改修を受けており、明治～大正にかけての建築技法を知る上での貴重な遺構。</li> <li>・ガラス乾板調査: 写真目録の作成、乾板写真の複写及びデータ処理、写真の解析を行った。旧名主家の暮らしぶりや関東大震災時の被災状況、豊田駅や八王子宿等が写され、明治期～大正期の貴重な写真となっている。ガラス乾板178点、ブローニー版3点。</li> <li>・古文書等歴史資料調査: 古文書専用中性紙封筒と文書カードに必要事項を記入し、データ入力し、古文書目録を作成した(1,320点)。市内最古の検地である文禄検地の検地帳(6冊)が発見された。豊田村の基礎的資料や豊田村の領主大久保氏のこと、ビールや煉瓦、耕地整理事業といった重要な資料が多数発見された。</li> </ul>
<p><b>協議会の意見</b></p>	<p><b>&lt;調査結果について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通ガラス乾板は明治初期であるが、大正期でガラス乾板はおもしろいのではないかと。趣味の方がいてそういうものにこだわって撮影をされたのではということも想像される。</li> <li>・戦前の多摩地域の貴重な写真群、写真を解明するためにも文書資料群の調査研究の中で写真資料の位置づけがより一層追及できるのではないかと。</li> <li>・旧名主家の江戸時代から現代までの地域への貢献、明治以降の諸産業模索の様子など、様々な資料が昨年度、郷土資料館により日の目を見た。</li> <li>・緊急に調査することになったにも関わらず、多大な成果を挙げられた。</li> <li>・調査結果を活用し、市の他部署と連携、市の活性化に繋げたことは、大いに評価できる。</li> </ul> <p><b>&lt;今後の展開や期待など&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して、調査の発展・全体像の解明がなされることを望む。</li> <li>・今後、調査と整理が進展すれば、中間報告も兼ねた「特別展」を開催したい。</li> <li>・先になると思うが、旧名主家宅に見学・展示施設を設ける。</li> <li>・近年では文化財の調査を外部に委託することが少なくないようだが、館の学芸員が担当するのはその資料について長期的・継続的に、また他の資料との関連のなかで把握する意味でも保管施設とし必要と思う。独善的になっては困るが、すべてに渡ることには困難もあるが、必要に応じて対応すべきである。</li> </ul>
<p><b>課題と改善策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書等の歴史資料やガラス乾板、建築構造、遺跡発掘調査等、各分野の成果が連動しあっている。そのため、各分野間での情報の共有化がはかられる必要がある。</li> <li>・今回の調査はまだ氷山の一角であり、今後、分野毎に更なる調査(追加目録や主要文書の解読等)が必要である、来年度も継続して調査を行うことが望ましい。</li> <li>・文庫蔵、穀蔵内部にある民俗資料の調査も必要である。</li> </ul>



郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No.8 幻の真慈悲寺調査事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<p>中世の大寺院真慈悲寺を中心に、百草・倉沢地区の歴史と文化について調査、研究を行い、広く一般へ日野の文化財を周知することを目的とした事業を行っている。市民と協働で調査研究を進め、市民自らが日野の郷土史を学ぶという生涯学習を推進する大事な事業ととらえている。 百草八幡神社などの資料所蔵者や、東電・京王といった企業などの協力も得て、地域とつながりながら事業を展開している。</p>
<p><b>事業の成果</b></p>	<p>真慈悲寺調査ボランティアの協力を得て、百草八幡神社境内と東京電力敷地内仁王塚において2回の発掘調査を実施した。その結果、八幡神社との関連を強く示唆する石敷きの遺構を発見した。13世紀まで遡る遺物が出土しており、八幡神社の来歴を考える上での貴重な資料を得ることができた。また、仁王塚では、これまで江戸時代の文書でしか語ることのできなかった経筒発見の地と同定できる礫群を発見した。この2件の調査結果は、平成28年度秋に予定している真慈悲寺調査の総まとめとなる特別展で、真慈悲寺が百草の地にあったことを証明する大きな成果である。また、平成28年度の特別展に向けて、ボランティアを中心に「百草・倉沢地区の歴史案内(仮称)」の冊子や、「百草と関連の深い人々」を紹介するDVDの編集などを精力的に進めてきた。年間を通して延べ約1,300人近い市民がさまざまな形で事業に参加しており、生涯学習の場として広く活用されている。</p>
<p><b>協議会の意見</b></p>	<p>&lt;市民参加など&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・真慈悲寺は市民ボランティアとの協働の調査により大きな成果をあげ、かなり周知されてきた。平成28年度の特別展に向けての調査や展示準備がなされてきた。特別展を期待したい。</li> <li>・将来を見据え課題を設定し、市民協働とし活動を続けているのが素晴らしいと思う。その成果が公表されている点も評価できる。</li> <li>・真慈悲寺に関する調査研究は大きな成果を挙げている。また、多くの市民が参加しており、この点でも大きく評価できる。</li> </ul> <p>&lt;普及活動ほか&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・百草八幡神社境内の「銅造阿弥陀如来坐像」は、国の重要文化財である。まさに、日野市の宝・誇りである。長期間の公開を実施し、市民に広く知らせたい。</li> <li>・10年に及ぶ調査のまとめの段階とのこと。決定的な発見が出ることを祈念する。</li> <li>・今まで探られたいろいろな材料を小説家に提供して、例えば「松連寺物語」など書いてもらえるとよい。</li> </ul> </p></p>
<p><b>課題と改善策</b></p>	<p>これまでの10年にわたる調査・研究活動の成果を集約していくことが求められている。 平成28年度は特別展を開催して広く一般に真慈悲寺の存在を周知し、多くの市民から求められていた国の重要文化財「銅造阿弥陀如来坐像」の公開をめざす。また発掘調査の学術的な報告書を刊行し、専門的な立場から評価を受けられるようにする。</p>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No9 七生丘陵の自然と歴史調査事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	
	<p>七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えていく。七生丘陵調査団の市民メンバーで積極的に活動を行った。</p>
<p><b>事業の成果</b></p>	
	<p>市民が主体的に興味をもって学習活動を行いながら調査を行ない、生涯学習としての場を提供する機会ともなった。また、調査したことを市民に伝えることも同じメンバーが行うことで、自ら発見したこと気づいたこと、調べたことの面白さや魅力を実感をもって伝えることができる。自然班、歴史班とそれぞれのもつ興味で班を分けての活動もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丘陵散策コースを中心に動植物の写真を撮影し記録した。</li> <li>・散策コースなど昔の写真などに写る情報について調査した。</li> <li>・調査成果を反映した展示パネルにまとめて、展示を開催した。</li> <li>・京王線高幡不動駅南北通路において、七生丘陵散策コースの昔と今のパネル展を開催した。</li> <li>・体験講座「昔の野猿峠ハイキングコースを歩く」を開催した(48人参加)。</li> </ul>
<p><b>協議会の意見</b></p>	
	<p><b>&lt;市民協働事業の成果など&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ボランティアの立派な調査活動により、市内の情報を積極的に収集・パネル化し、館内外で展示を行い、郷土資料館の名前を広めるに至ったことは大きく評価したい。</li> <li>・七生丘陵の自然と歴史について、多面的且つ継続的に市民と共に調査を実施し、その結果をパネル展示して広く公開し、大きな成果を挙げている。</li> <li>・高幡不動駅の南北通路で展示した「七生丘陵 昔と今」のパネル展示は、多くの市民から好評の声を聞いた。</li> <li>・郷土資料館等で自然系の活動が手薄になりがちなか中、地道な活動を続けていることが評価できる。</li> </ul> <p><b>&lt;今後の活動や資料公開など&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの内容を歴史部門のように、簡単な印刷物にして展示会を見られなかった市民にも情報提供し、積み上げて行くと良いのではないか。</li> <li>・収集した素晴らしいデータを印刷物にし、郷土資料館の資料として公開し、残していくべきである。</li> <li>・「展示」「座学」「体験」は、3点セットである。今後も3点セット方式を継続する。</li> </ul>
<p><b>課題と改善策</b></p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的に調査情報を蓄積し、公開や利用を考えた上での基礎データの管理方法を具体化する必要がある。</li> <li>・七生丘陵調査団のメンバーそれぞれの得意分野を活かして、活動を充実させていくとともに、それぞれのもっている能力を見学会や勉強会などで広く市民へと伝えていくことも必要である。</li> <li>・パネル展の内容はプリント製本して図書館に配架する。</li> <li>・パネル展実施後もパネルの再展示の機会をつくる。</li> </ul>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No10 資料館講座・体験学習事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<p>市内の農家が提供した稲わらを使っての正月飾り作りや古い農具を使った体験講座、伝統行事である「どんど焼き」を実施した。また「化石でたどる大昔の日野」や「石田散菓を作ろう」といった体験学習会を通して、日野の自然や歴史・文化を学ぶ講座等を開催した。</p>
<p><b>事業の成果</b></p>	<p>石田散菓作り、市民講師を招いての正月飾り作りや、地域に密着したどんど焼き等の講座・イベントの実施により日野の郷土に残る文化、風習の伝承を図ることができた。また市民団体「程久保グループ」の協力を得て、農業体験・農具体験及び民具等の修理が推進された。なお、体験学習・イベント参加者は総数1,563名を数えた。</p>
<p><b>協議会の意見</b></p>	<p><b>&lt;事業全般&gt;</b>          ・多くの市民が参加し、「正月飾りを作ろう」「石田散菓を作ろう」等の風習等の伝承を体験した。評判もよく今後とも継続的な活動が期待される          ・講座・体験学習にも積極的に取り組み、成果をあげていることに注目ができる。</p> <p><b>&lt;今後の提案&gt;</b>          ・体験学習室に大人にも提供できるメニューをつくる。          ・使用できる民具を修理模造等して増やす。          ・夏休み・冬休みの子供講座、親子講座を充実させる。          ・どんど焼きは多摩では大半本来夕方から夜の暗い中に行っているもの。実施には困難を伴うものと思うが、夜・火・音等の体感は欠かせないだろうと思う。</p>
<p><b>課題と改善策</b></p>	<p>・どんど焼きについては、やぐら作りに欠かせない萱・稲わらの収集が年々厳しくなっているため、材料の確保等について検討する必要がある。          ・「寄贈」「寄託」で増えた農具等の保管及び体験学習時での利用が引き続き課題となっている。平成28年度の体験学習室整備に併せて保管場所などを検討し、さらに農具・民具の整備を進めなければならない。</p>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p><b>事業項目</b></p>	<p>No11 自然収蔵展示室の整備事業</p>
<p><b>事業の概要</b></p>	<p>平成26年度は民俗収蔵展示室の改修を実施し、引き続いて平成27年度は、自然収蔵展示室の改修を行った。黒板の撤去、LEDライト対応照明器具への交換、壁面の改修、空調機の設置、扉の交換を行った。また廊下天井の照明もLEDライトに対応する器具に交換した。</p>
<p><b>事業の成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明器具の交換により、室内全体に光が行き届き、またLEDライトのため、省エネルギーおよび資料保護にも有効となった。空調機を設置し夏季・冬季環境のサービスを向上させ、収蔵資料の保護が図れるようになった。</li> <li>・展示室入口扉の開閉がスムーズになり、「ガラスはめ込み扉」に改修したため展示室が開かれた印象となり、防犯上の効果もある。</li> <li>・整備の結果、室内の余裕ができたため、収納していたバードカービングなどを展示し、また大型のアケボノゾウ足跡やクジラ化石などをゆったりとした空間で見学できるようになった。</li> </ul>
<p><b>協議会の意見</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫であった場所を展示室へと改修し、展示にも工夫がなされ、好評である。</li> <li>・全館の見学ルート、流れを誘導できるような工夫を望む。</li> <li>・資料展示室としての体裁が整って来ている。見易く解り易い展示ができるように、今後とも継続的な改善努力が期待される。</li> <li>・整備事業は一度に進めることが困難と思うので、地道に継続的に行うことが必要である。途絶えることなく進められることを期待する。</li> </ul>
<p><b>課題と改善策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示空間にゆとりがあるため、より多くの展示資料を公開するようになりたい。</li> <li>・オープンな展示棚のため、資料を安全に展示するために、今後展示に合わせた小規模な改修や展示ケースの活用などの検討が必要である。</li> <li>・収蔵保管も合わせて行うため、資料の出し入れや管理を行いやすくする工夫が必要である。</li> </ul>

< 参考資料 >

## I 平成27年度 日野市郷土資料館の活動状況

### 1 郷土資料館協議会

日野市郷土資料館協議会は、博物館法第20条第1項に基づき置かれ、同第2項に、資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。また、日野市郷土資料館条例第9条に、協議会委員は教育委員会が任命し、委員の定数は10名以内となっている。なお、委員の任期は同第10条に2年となっている。

#### (1) 協議会委員名簿

##### 第5期委員

氏名	主な活動分野
◎松川 正樹	学識経験者（古生物研究）
○杉浦 忠機	社会教育の関係者（自然環境体験指導）
上野 さだ子	社会教育の関係者（歴史・古文書研究）
小林 和男	社会教育の関係者（農業体験指導・考古学）
今尾 恵介	学識経験者（まちの歴史・地図解説）
秋山 譲児	学校教育の関係者（平山中学校校長）
小杉 博司	学識経験者（郷土教育）
岡部 君夫	学校教育の関係者（滝合小学校校長）
都 美里	公募市民
山口 久夫	公募市民

◎委員長 ○副委員長 任期 平成26年3月4日～平成28年3月3日

#### (2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
7月17日	郷土資料館	1 委嘱状の交付 2 (報告事項) ①平成26年度事業報告 ②平成27年度事業について 3 (協議事項) 平成26年事業評価について

10月2日	市役所	1 (報告事項) ①平成 26 年度事業評価の教育委員会への報告について ②平成 27 年度事業 (4 月～9 月) について 2 (協議事項) ①資料寄贈・寄託のガイドラインについて 3 (見学) ①特別展「ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語—勝五郎生誕 200 年記念展—」
2月26日	郷土資料館	1 (報告事項) ①平成 27 年度事業 (10 月～2 月) について ②平成 28 年度の事業予定について ③第 5 期郷土資料館協議会委員任期の終了について 2 (協議事項) 資料の寄贈・寄託のガイドラインについて

## 2 古文書等歴史資料整理編集委員会

市民の教養、学術及び文化の向上を図ることを目的とし、課題について古文書等歴史資料を調査研究し、報告するため、日野市古文書等歴史資料整理編集委員会設置要綱に基づいて設置されている。

委員会の委員は、古文書等歴史資料に対して優れた見識を有する者の内から教育委員会が選任し、定数は6名以内、任期は2年となっている。

### (1) 委員名簿

氏名	専門分野
沼 謙吉	近代史
清水 守男	近現代史
安藤 陽子	近代史
鈴木 淳世	近世史
多田 仁一	近世史
馬場 憲一	近世史

## (2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
6月18日	郷土資料館	1 平成27年度の資料調査事業について ①豊田旧名主家文書の調査について ②豊田E家文書の調査について ③豊田N家文書の調査について ④落川N家文書の調査について ⑤その他 2 マイクロフィルムのデータ化について 3 勝五郎生誕200年記念事業について 4 広報「みんなのふるさとこぼれ話」とホームページ版「日野の歴史と民俗」について 5その他
12月3日	郷土資料館 旧名主家	1 平成27年度の資料調査事業について ①豊田旧名主家文書の調査について ②その他の資料調査 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 3 豊田旧名主家の蔵の見学 4その他
3月24日	郷土資料館	1平成27年度の資料調査事業について ①豊田旧名主家文書の調査について ②その他の資料調査 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 3 平成28年度の資料調査計画について 4 その他

## 3 展示事業

### (1)企画展示

企画展名	展示期間	観覧者数
どつき土器展—掘り出された昔の暮らし—	4.18～7.12	341
『稻生物怪録絵巻(いのうもののけろくえまき)』パネル展	7.11～9.6	—
日野市内の自然をさぐる	7.18～10.4	267
平和の尊さを語り継ぐまち 一戦後70年 平和展—	10.10～1.11	950
字限図(あざぎりず)でみる日野	1.16～4.17	204
合計		1,762

## (2) 収蔵展示

自然収蔵展示室を整備し、リニューアルオープンを行った。

## (3) 施設見学

### ① 学校

月 日	学校名	対 象	内 容	人 数
6. 26	旭が丘小学校	3年	社会科見学	95
7. 7	仲田小学校	3年	社会科見学	63
7. 9・10	三沢中学校	2年	職場体験	3
9. 10・11	平山中学校	2年	職場体験	8
9. 29	三沢中学校	1年	総合的な学習、日野市の歴史	38
10. 16	滝合小学校	3年	社会科見学	48
10. 22	平山小学校	3年	社会科見学	90
12. 1	東光寺小学校	3年	社会科見学	65
12. 11	日野第一中学校	1年	総合的な学習、日野市の歴史	120
1. 22	帝京小学校	3年	昔の道具、農具体験	46
2. 2	夢が丘小学校	3年	昔の道具、農具体験	58
2. 4	潤徳小学校	3年	昔の道具、農具体験	67
2. 5	日野第四小学校	3年	昔の道具、農具体験	127
2. 9	日野第三小学校	3年	昔の道具、農具体験	79
合 計			14件	907

### ② 団体

月 日	団体名	内 容	人 数
6. 5	郷土教育推進研究委員会	企画展の見学	17
6. 13	デイサービスいずみの春	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	9
7. 9	デイサービスいずみの友	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	26
7. 10	デイサービスいずみの友	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	21
7. 10	デイサービスいずみの春	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	14
7. 16～19	法政大学一般教養民俗学授業	博物館に関する聞き取り	4
10. 6	デイサービスゆりの木	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	7
10. 12	百草ふくしの里 あすなろ	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	3
11. 6	デイサービスゆりの木	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	7
11. 10	デイサービスいずみの友	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	23
11. 11	デイサービスいずみの友	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	18
12. 1	デイサービスあいあい	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	8
3. 30	公民館わくわく学習術	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	20
合 計		13件	177



#### (4) 特別展『ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語—勝五郎生誕 200 年記念展—』

##### ① 観覧者数

会 期	会 場	観覧者数
9.19 ～ 11.15	新選組のふるさと歴史館	2,800

##### ② 特別展関連行事

月 日	名 称	人 数
9.26	記念式典	40
10.24	講演会「文化資源としての人と物語 —小泉八雲の世界をめぐって—」講師：小泉凡氏	103
11.3	見学会「勝五郎生誕 200 年記念ウォーク —多摩のお墓と勝五郎生まれ変わり物語—（東京都埋蔵文化財センター共催）	38
11.7	講演会「勝五郎生まれ変わり物語探究調査団報告会」 講師：調査団メンバー	69
合計	4 回	256

#### 4 イベントについて

事業名	月 日	会 場	一般参加数	スタッフ 人数	計
たきび祭（前夜祭ほか）	12.4・5	旭が丘中央公園	551	6	557
どんど焼き	1.11	郷土資料館	550	12	562
合 計		2 件			1,119

#### 5 教育普及事業

##### (1) 体験学習会

##### ① 自然に触れる体験学習会

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
3.12	化石でたどる大昔の日野	馬場勝良氏 松川正樹氏	多摩川河川敷	19

② 農業体験講座(公民館との共同事業)

月 日	内 容	会 場	人 数
5.9～7.18	「親子でスイカ・マクワウリを作ろう」4回	南平耕作地	85
11.14～ 1.16	「親子で楽しむ豆腐作り」3回	南平耕作地・公民館高幡分室	48
合 計	7 回		133

③ その他

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
7.25	石田散薬を作ろう①ミゾソバ採集	郷土資料館	土方歳三資料館 向島用水(新井)	25
8.22	石田散薬を作ろう②石田散薬作り	郷土資料館	郷土資料館	25
12.12	お正月飾りを作ろう	わらぞうり 保存会	郷土資料館	20
合 計	3 回			70

(2) 講座

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
11.22	村絵図を楽しむ6 落川村の地名をたずねて	上野さだ子氏	郷土資料館	23
11.29	村絵図を楽しむ6落川村の地名をたずねて 第2回落川村を歩いてみよう	上野さだ子氏 朝倉康雅氏	落川近辺	19
1.24	古文書講座 第一回	上野さだ子氏	郷土資料館	29
1.31	古文書講座 第二回	大窪俊彦氏	郷土資料館	26
2.7	古文書講座 第三回	上野さだ子氏	郷土資料館	25
2.14	古文書講座 第四回	上野さだ子氏	郷土資料館	25
3.26	体験講座「昔の野猿峠ハイキングコースを歩く」	川澄祐勝氏 七生丘陵調査団	高幡～平山	39
合 計	7 回			186

※調査事業による講座については、各事業欄に記載

### (3) 出張事業（展示及び講師派遣）

#### ① 学校などへの出張授業

月 日	学校名ほか	対 象	内 容	人 数
8. 26	中学校教育研究会社会科部会	委員	日野の戦跡めぐり	13
10. 7	平山小学校	6年	平山季重について	110
10. 14	仲田小学校	5年	脱穀体験	73
10. 15	日野第六小学校	5年	脱穀体験	128
10. 23	ゆいまーる多摩平	入居者	日野の歴史と自然	20
10. 30	ゆいまーる多摩平	入居者	日野の歴史と自然	16
12. 1	日野第一中学校	1年	日野の歴史について	260
12. 6	豊田小学校	3年	昔の道具	120
12. 18	豊田ビールプロジェクト	関係者	蔵の見学	9
1. 19	平山小学校	3年	昔の道具	89
1. 20	日野第五小学校	3年	昔の道具	91
1. 21	潤徳小学校	3年	昔の道具（公開授業）	71
1. 26	旭が丘小学校	3年	昔の道具	94
1. 27	南平小学校	3年	昔の道具	87
1. 28	七生緑小学校	3年	昔の道具	76
1. 28	平山小学校	6年	災害の歴史	110
1. 29	潤徳小学校	3年	昔の道具	148
2. 3	日野第八小学校	3年	昔の道具	142
2. 4	仲田小学校	3年	昔の道具	60
2. 10	滝合小学校	3年	昔の道具	62
3. 8	日野第七小学校	3年	昔の道具	99
合 計			21 件	1,878

※調査事業関連の出張授業は各事業欄に記載

#### ② その他

月 日	内 容	会 場	人 数
10. 11	平山季重まつりパネル展	平山小学校	450
12. 15～1. 29	パネル展「多摩平写真日記」	多摩平の森ふれあい館	—
1. 14～2. 12	パネル展「七生丘陵散策コースの昔と今」 (巡回時確認人数のみ)	京王線高幡不動駅南 北自由連絡通路	566
合計	3 件		1,016

### (4) レファレンス事業

内 容	件 数
電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問に対する調査回答	136

## 6 所蔵資料活用事業

### (1) 資料のデータ化事業

項目	内容
マイクロフィルムのデジタルデータ化及び 目録作成作業	22,100 コマ

### (2) 資料の貸出事業

主な貸出先	資料	目的
七生緑小学校、滝合小学校	糸車	国語「たぬきの糸車」
旭が丘小学校	地層剥ぎ取り標本	6年理科授業
産業振興課	唐箕	蕎麦や麦の脱穀
中央公民館	火起こし器	防災食の講座のため
まんがんじ児童館、公民館	草とり・足踏み脱穀機・ふる い・唐箕・くるり棒・扇風機 などの農具	田の草取りと脱穀のため
七生支所	各種展示パネル	七生支所利用者へ地域のこ とを知ってもらうため
生涯学習課	養蚕関係資料一式	桑ハウス公開に伴う展示のた め
件数		16

### (3) 資料の撮影・閲覧

資料内容	目的
実物資料の閲覧（貝化石、石皿）	論文掲載
写真の提供	テレビ番組、博物館・銀行内展示、研究書・ 新聞・広報誌掲載ほか
調査資料ファイル（石仏）	学習
件数	19

## 7 資料収集保存・調査事業

### (1) 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈・寄託	寄贈 12 件、寄託 2 件	14 件
資料購入	行灯	1 点
収集資料の整備ほか	民具の補修、農具体験及び脱穀体験の補助及び民具整理補助 (46 回)	112 人
資料修復	落川村絵図	4 点

### (2) 調査事業

#### ① 幻の真慈悲寺調査事業

区分	事業名	内容	回数	人数	
普及	ガイド・解説	調査センター見学者への解説	2	80	
	現地イベント (9.20)	イベント準備		3	33
		阿弥陀如来坐像公開		1	144
		百草八幡神社所蔵の絵馬公開			
		平成 27 年度真慈悲寺調査の報告			
		講座「百草八幡に祀られた歴史上の人物—源義家・武内宿祢・津戸明神—」 講師：小野一之氏			
		推定真慈悲寺周辺ガイドツアー			
		パネル展示			
	展示	百草図書館掲示板	2	17	
	ブックレット編集	百草・倉沢地区歴史ガイドブック	3	24	
DVD 編集	百草ゆかりの小林正利・青木角蔵・寿昌院普及ビデオの作成	8	87		
調査・研究	調査	秩父実踏（中世瓦出土地点の見学会）	6	60	
		六地藏調査			
		表採遺物整理			
	発掘	百草八幡神社境内	2	192	
		東京電力仁王塚			
	研究会	プロジェクトのまとめ	36	391	
文書	青木家文書解説	10	92		

区 分	事業名	内 容	回 数	人 数
環境整備	その他	真慈悲寺調査研究センターの清掃・松連寺 関連墓地の整備	4	53
自主活動	真慈悲寺ボラ ンティア自主 活動	真慈悲寺調査ボランティアの自主活動 歴 史散策	12	123
	広報	解説リーフレットの配布 500 枚以上 ・ 解説リーフレット増刷 1,000 部 百草周辺の歴史散策ガイド増刷 2,000 部		
合 計			89	1,296

② 勝五郎生まれ変わり物語調査事業

内 容	日 時 ほか	人 数
例会	毎月第二水曜日午後 (12回)	228
総会	5.17	21
公開講演会	5.17 講座 「江戸の学者・役人たちと勝五郎の転生 騒動」講師:今井秀和氏 会場:郷土資料館	28
報告書編集委員会	12回	157
出張展示・講座	7.1 滝合小学校ひのっち	34
	7.2 旭が丘小学校ひのっち	44
	7.19 夏休み子ども講座	50
	10.6～10.26 モノレール高幡不動駅コンコ ース	—
	10.25 中央大学ホームカミングディ	—
	10.31・11.1 明星大学文化祭	—
	11.16 夢が丘小学校	350
出張展示・講座	1.16 日野第六小学校	1,030
	1.29～3.11 八王子市由木事務所	300
記念行事	2.28 日本神霊科学協会	100
	10.10 第7回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演 会 「勝五郎と世界の生まれ変わり事例－実は身近 な過去生の記憶」 講師:大門正幸氏 会場:高幡不動尊	241
調査活動	国文学研究資料館	2
	府中市郷土の森博物館	1
	多摩市小谷田家	4
	パルテノン多摩歴史ミュージアム	3

	新宿歴史博物館	2
	墨田区弘福寺	4
その他の活動		92
刊行物の発行	小宮家墓地（藤蔵墓所）の案内リーフレット（3,000枚）、子ども向けリーフレット（5,000枚）ほどこぼ小僧生まれ変わり物語（調査報告書1,000部・ブックレット1,500部・マップ1,000部・DVD100部・特別展リーフレット4,000部）	
合 計		2,691

### ③ 七生丘陵調査事業

活動内容	回 数	人 数
定例会（11回）・総会（1回）	12	132
七生丘陵の自然観察、散策コース確認など屋外活動	22	140
写真データの整理・標本管理など屋内での調査・研究活動	25	96
パネル展示「七生丘陵散策コースの昔と今」（京王線高幡不動駅南北自由連絡通路）の開催作業と巡回（1.14～2.12）	30	49
体験講座「昔の野猿峠ハイキングコースを歩く」案内	1	9
合 計	90	426

### ④ 古文書調査事業

#### （ア）日野の古文書を読む会との協働

内 容	回数ほか	人 数
古文書整理（川辺堀之内 A 家文書ほか）	15	68
古文書の解読	40	374
編集会議	23	77
合 計	78	519

（イ）豊田旧名主家古文書調査 目録作成1320件、ガラス乾板の撮影など

（ウ）その他の調査事業 豊田 E 家・N 家、川辺堀之内 M 家など

### ⑤ その他

項 目	内 容
文化財調査	欣浄寺本堂の建築調査・豊田旧名主家の文化財調査

## 8 東京都博物館協議会・東京都三多摩公立博物館協議会

### (1) 東京都博物館協議会

#### 総会及び見学研修会の開催

○第1回総会及び第1回見学研修会

平成27年(2015年)7月22日 会場：東京都国立近代美術館  
(総会・見学研修会)

研修 テーマ：「開催中の展覧会について」

○第2回総会及び第2回見学研修会

平成28年(2016年)2月17日

総会 会場：東京都国立近代美術館

研修 会場：東京都国立近代美術館

テーマ「2020年を見据えた美術館・博物館の連携した取組について」

「都内の民間美術館・博物館等を対象とした、外国人旅行者の  
受入環境整備を支援する補助制度について」

### (2) 東京都三多摩公立博物館協議会

#### ① 定期総会

平成27年(2015年)5月22日 会場：パルテノン多摩

#### ② 協議会

平成27年(2015年)10月21日 会場：多摩六都科学館

#### ③ 研修会

第1回 平成27年(2015年)9月29日 会場：東京都埋蔵文化財センター

第2回 平成27年(2015年)11月17日 会場：パルテノン多摩

第3回 平成28年(2016年)2月16日 会場：国文学研究資料館



<参考資料>

## Ⅱ 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

<参考資料>

### Ⅲ 第6期日野市郷土資料館協議会委員名簿

番号	氏名	備考	期
1	杉浦忠機	社会教育の関係者 (自然環境体験指導)	6
2	小杉博司	学識経験者 (郷土教育研究)	2
3	上野さだ子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	6
4	保坂一房	社会教育の関係者 (多摩の地域史研究)	1
5	畠山 豊	社会教育の関係者 (民俗学・博物館学)	1
6	平 自由	社会教育の関係者 (考古学・博物館学)	1
7	秋山讓児	学校教育の関係者 (平山中学校校長)	6
8	池田泰章	学校教育の関係者 (仲田小学校校長)	2
9	都 美里	公募市民	2
10	山口久夫	公募市民	2

任期 自 平成28年 3月 4日  
至 平成30年 3月 3日



平成28年度日野市郷土資料館の  
運営の状況に関する評価書  
(平成27年度事業)

平成28年9月

日 野 市 郷 土 資 料 館

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915